

表3 屠体成績及び産肉能力等級

検定牛名	項目	屠殺前 体重 Kg	冷屠 体重 Kg	枝肉 歩留	コース芯 の面積 cm ²	脂肪交雑	枝肉 格付	能力 等級
岩 栄	平均	490.7	302.5	61.7	29.05	1.0 0.5~1.4	中 4 並 2	B+
	S D	27.9	21.0		2.38			
	C V	5.7	6.9		9.9			
大 成	平均	470.0	284.5	60.5	29.78	0.7 0.4~1.0	中 2 並 4	B
	S D	5.9	6.8		2.09			
	C V	1.3	2.4		7.0			
皇 林	平均	482.7	299.7	62.1	30.75	0.5 0.4~0.7	並 6	B
	S D	26.1	18.4		1.20			
	C V	5.4	6.1		3.9			

(5) 残された問題点

- ① 検定種雄牛の選抜淘汰基準の検討
- ② 放牧時における種雄牛の複数混牧の排除
- ③ 供用種雄牛の早期検定実施

6 肉牛肥育経営における規模と生産性

1. 背景と特徴

肉牛肥育経営の専作的拡大は購入飼料の拡大とともに繁殖経営より早いテンポで進行した。しかし飼料の値上り、公害問題また肉価の値下り等で極端な破綻をきたした。正常で高い生産性を期待しつつ経営拡大をはかる指導が必要である。

ここでは規模による生産性の違いを参考に供する。

2. 技術の内容(参考)

(1) 規模別生産性について

規模拡大は段階毎に技術の変更が必要となり、それにともなつた投資が必要である。その場合再生産のルールと規模法則が実現しなければ収益はあがらない。

調査結果では、技術変更の規模段階はⅠ30頭以下、Ⅱ50~70頭Ⅲ100頭以上に区分される。生産性は①労働生産性は規模拡大の効果が現われ拡大とともに生産性の上昇が見られる。②資本生産性はUダウ現象が70頭規模に見られる。したがって技術、投資の規模

段階は30頭段階から100頭段階に進むべきであると考えられ、70頭を段階的にやる場合、飼料調達、糞尿処理、等に特別の条件が必要である。

3 普及上の留意点(指導上)

- (1) 生産性の検討は調査をもとにした、試算値であり、それぞれの係数の変動を確認し経営成立の可否を検証しつつ指導する必要がある。
- (2) 同一規模でも、品種の違いが(日本短角種)肥育サイクルを異にするため投資額が増加し、生産性を低下させる。その原因は子牛の季節生産からくるものであり、改善等がのぞまれる。

4 試験成績の概要

(1) 試験課題名 高能率肥育経営の展開に関する研究

(2) 試験年次及び場所 昭和48~50年

(3) 試験方法

- | | | |
|-------|------|---------------------|
| ①調査対象 | 概況調査 | 岩手県内15頭以上肥育農家130戸 |
| | 精密調査 | 経営形態別 7戸 |
| | 関連施設 | 成形乾燥施設5ヶ所 乾草専門牧場2ヶ所 |
| ②調査方法 | 概況調査 | 悉皆郵送法 |
| | 精密調査 | 精密及び関連施設、聴取、測定、記帳 |

(4) 試験結果

①技術変更の規模段階

I 30頭以下、II 50~70頭、III 100頭以上に区分され、粗飼料自給、糞尿処理、投資水準等がポイントとなる。

②規模別生産性

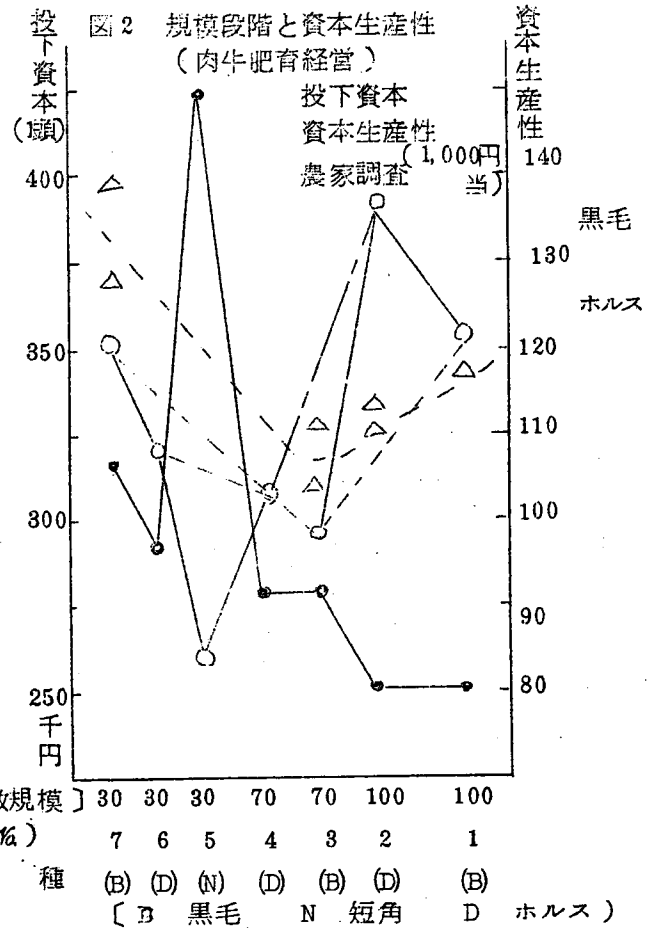
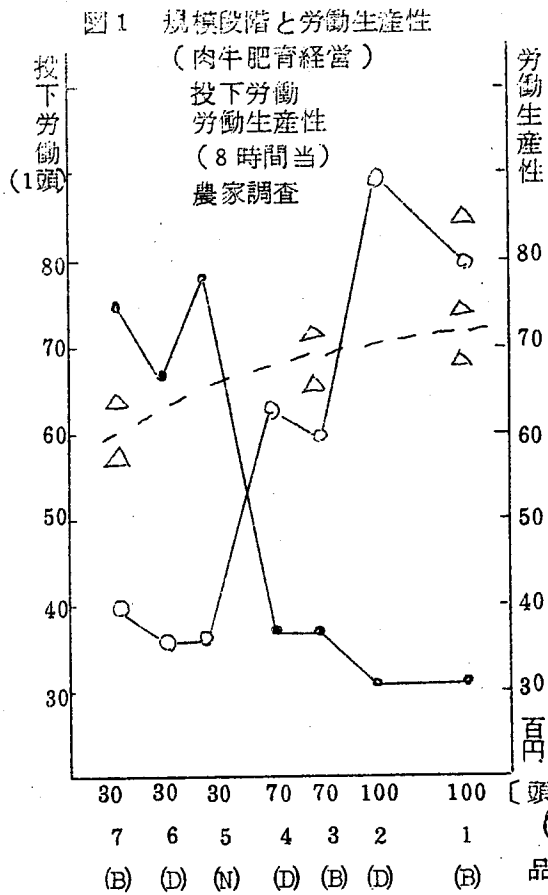
労働生産性：規模拡大の効果が現われ拡大は上昇傾向を示す。

資本生産性：Uダウ現象は70頭規模で見られる。

③肥育経営をとりまく条件整備

素牛を安定的に供給する素牛ストック場、良質粗飼料を供給する専門牧場、資金運用をなめらかにする手当、価格安定を考えた共済制度の確立等が当面必要な要素となる。

(5) 主要成果の具体的データ



(6) 残された問題点

① 生産団地育成の方法と手順

表1 体系別生産性技枝の水準

№	規模 (品種)	飼養の 特徴	導入 体重	仕上 体重	肥育 日数	日増 体重	1頭当 TDN 必要量	枝肉 歩留	脂肪 交雑
1	100頭 (黒毛)	オールインワン スノコ・群飼	230Kg	600Kg	450日	0.82Kg	2,565	59%	2~3
2	100頭 (乳牡)	濃飼+稲ワラ スノコ・群飼	220	600	368	1.03	2,351	58	0.8~1.2
3	70頭 (黒毛)	"	230	600	480	0.77	2,565	59	2~3
4	70頭 (乳牡)	"	220	600	368	1.03	2,351	58	0.8~1.2
5	30頭 (短角)	夏放牧・冬デント 開放・群飼	220	600	540	0.68	2,685	58	1~2
6	30頭 (乳牡)	濃飼+稲ワラ 開放・群飼	220	600	368	1.03	2,351	58	0.8~1.2
7	30頭 (黒毛)	同年乾草 開放・群飼	230	600	550	0.67	2,775	62	3以上

表2 試算に使用した単価

スノコ式牛舎 (m ²)	30,000 円	濃厚飼料 (Kg)	65 円
尿溜 (m ²)	20,000	鉋塩 (＃)	70
堆肥舎 (m ²)	20,000	ガソリン (ℓ)	55
固液分離機	2,000,000	軽油 (＃)	38
バキュームカー(1800ℓ)	1,400,000	素牛(黒毛)(1頭)	230,000
牛衡器	360,000	(ホルス)(＃)	89,000
カツター	1,500,000	(短角)(＃)	184,000
トラクター(30PS)	1,000,000	肥料2-1-2 (Kg)	草地化成 52
フォーレージ(フレイル)	950,000	ペルトワイン(1巻)	2,700
ハーベスタ(コーン)		農用ビニール(本)	3,000

表3 規模別生産性

No.	枝肉 単価	肥育牛 1頭当 所得	粗収益	物財費	純生産	労働生産性		資本生産性	
						年間 投下労働 (8時間当)	生産性 (円)	投下資本 (千円)	生産性 (1,000円当)
1	1,475	37,485	54,151	50,402	3,040,505	3,041	7,997	25,029	121.4
2	1,024	34,366	36,435	32,998	3,409,158	3,041	8,984	25,029	136.2
3	1,475	35,922	37,730	35,215	1,912,108	2,555	5,987	19,501	98.0
4	1,024	28,705	25,504	23,495	2,009,382	2,555	6,291	19,501	103.0
5	1,200	36,056	12,768	11,686	1,081,702	2,340	3,698	12,746	84.8
6	1,024	30,681	10,930	10,010	920,449	1,998	3,685	8,444	108.9
7	1,475	57,508	16,170	14,444	1,188,673	2,248	4,052	9,481	120.1

表4 季節生産と肥育サイクル(日本短角種N)

品種別	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
No. (N)		[導入] -----											
	5	[と殺] 540日			[放牧]				[舎飼期重複]				
No. (B)		[導入] -----											
	7	[と殺] 550日			[常時市場のため重複せず]					[と殺] 450日 480日			
No. (D)		[導入] -----											
	6	[と殺] 368日						[と殺]					